

図書だより

〈第39号〉
平成11年11月1日
呉工業高等専門学校
図書委員会



「回転書架」

撮影：呉高专写真部員

新書、ブルーバックスなど比較的読み易い本、約4,000冊をこの回転書架17台へ配架し、活字離れた皆さんに、図書館へ近づき親しんでもらおうと閲覧室の中央で目が回るほど頑張っています。

目次

【巻頭文】

知力を育てよう 校長 長町 三生 2

【読書感想文】

「上杉鷹山」(童門冬二著)を読んで A 1 田中 智世 3
 「アポロ13号奇跡の生還」(ヘンリー・クーパー Jr. 著)を読んで M2 森原 理絵 4
 「沈黙の春」(レイチェル・カーソン著)を読んで E 3 室川 正博 5
 「妹島和世読本—1988」(二川幸夫編)を読んで A 4 山本 仁美 5
 「人間喜劇 光あれ」(ウィリアム・サロイアン著)を読んで E 5 坂本 渉 6
 「動物農場」(ジョージ・オーウェル著)を読んで C 5 木村 紋子 7
 「ドイツを変えた10人の環境パイオニア」(今泉みね子著)を読んで
 専攻科M2 吉野 貴文 8

【留学生が紹介する外国の図書館】

八角亭 CHINESE LIBRARY C 5 デシリ 8

【新任教職員の随想】

読書のすすめ 環境都市工学科 重松 尚久 9
 読書のすすめ 機械工学科 八木 良尚 9
 読書のすすめ 電気工学科 大西 義浩 10
 読書のすすめ 環境都市工学科 石井 仁 10

【在外研究員だより】

外国図書館紹介 機械工学科 中迫 正一 11

【新着図書10選】

..... 12~13

【お知らせ】

1. 平成10年度 図書館利用状況 14
 2. 図書館が少しずつ変わっています、ご存知ですか? 14
 3. 広島大学附属図書館の利用について —18才以下の学外者の利用案内— 14

【編集後記】

..... 図書館長補 宇根 俊範 14

巻 頭 文

知力を育てよう

校 長
長 町 三 生



人間には生命を維持する体力と知性を支える知力の二つの能力を必要とします。

ただ、モノを食べさえすれば体力が保てるのではなく、バランスを考えた食事をする必要があり、インスタントラーメンをよく食する若者に腎臓に問題を起こして、就職時にあわてている学生を見かけます。また、適度に運動をしなければ弱い体力になり、重くもない荷物を持ち上げる際に“ギックリ腰”になったりします。体力だけを取りあげてみても、真面目に考えてみるといろいろな必要条件が存在するわけです。

体力に問題があれば、何らかの形でその症状が表面化しますが、知力の場合には“症状”が外に現れないので、問題点に気づかないことが多いのです。知力の栄養は、本を読むことです。そして、知力を強くする運動に当たる内容は、文章を書いたり、発表をしたりすることです。

知力には、知識と知性と創造力があります。知識とは物理現象の力学的法則や電気のオームの法則をはじめとして、いろいろな意味を持った事柄を知り記憶することであり、吸収した知識が多いほど物知りになり、いろいろな道理が理解できる人間となります。

知識は書物を読んだり、人の講演や話を聞くことで吸収できますが、興味を広げて多種類の書物を読むことで幅広い知識が得られますし、特に強い興味に関連した書物を多く読むことで、深い知識が得られます。今日、求められている人材はT型ではなくて、W型の知識を持つ人間であり、T型とは一つだけの深い知識を持った人物のことであり、いくつかの分野で深い知識を持った人物の

ことをW型知識人といいます。たとえば、技術に詳しいばかりでなく、歴史にも精通し、美術にもひとかどの知識を持っている人などを指します。

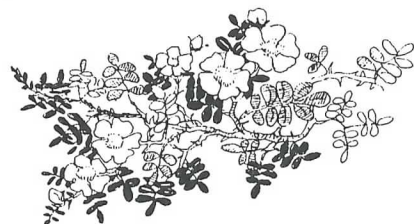
知識の吸収は、若ければ若いほど効率よく知識の貯蔵庫の中に蓄積されますが、歳をとるとその効果が薄れます。若い時代に読書をできるだけしなさい、というのはこの意味です。

知性は、たくさんの書物を読み、考えることで身につきます。物の考え方、対人関係、礼を尽くすこと、エチケット、あるいは相手の立場に立って人権を害わないように心掛けるなどが知性に当たり、これはすべてを体験できないために文章から読み取るという、一種のシミュレーションで学習する仕組みです。

創造力は、多くの本を読んでいるうちに内容についてイメージが湧き、そのイメージを現実から空想へ、過去から未来へ膨らませて拡大する作用で身につける能力です。ですから、読書中にただ文字を拾って読むだけでなく、著者がどんな気持ちで執筆したのか、書物に出てくる人物はどんな人物なのか、背景はどうなっているのかに次々と想いを巡らせることが必要です。

こうして、読書を通じて知識と知性と創造力を身につけながら、他方では日記をつけるとか読書感をメモするとか、あるいはレポートや論文を執筆することで表現力を磨くのです。できるだけホームルームでは発言し、率先してリーダーやレポーターになって発表するのです。この行為と体験が知力を育てる体力となって、益々、知力を拡大させることとなります。

緊張して読書する必要はありません。リラックスをし、自己の関心に合わせて、読んで面白そうな書物から読んでいけばよいのです。そのうちに本を読むことが楽しくなり、夢中になれるはずです。その時が知力が育っている時なのです。



読 書 感 想 文

よう ざん
上 杉 鷹 山
(童門冬二 著)

建築学科 1 年
田 中 智 世



私がこの本を選んだ理由は、私の父の薦めがもとだった。私の父は、以前テレビで上杉鷹山についての番組を見て、彼に関心を寄せていた。また、たまたま父の友人が彼のファンで、彼についての本を持っていたので、それを借りて読んでみた。

この話は、江戸時代に当時全国でも有名なほど財政難で苦しんでいた上杉家に養子として行き、わずか17才で藩主となった上杉鷹山（当時は上杉治憲）という青年の指導力の凄さを記した本だ。彼は見事に財政難を乗り越え、それだけでなく人々の信頼まで得た。

私はこの本を読んで、彼の素晴らしい模範的な話を二つ見つけた。

一つ目は、彼の奥さんのことだ。彼の奥さんは、身体障害者だった。もちろん彼女は普通の会話もできない人だった。にも関わらず、彼は自分で人形を縫ったり、折り鶴を折ったりして彼女を喜ばせたり、きれいな着物を彼女のために注文したりと、たくさんの愛情を彼女に注いだ。女中たちは、そんな彼の心優しい姿を見て涙を流した。普通の（大人の）お屋形はこのような女性のもとへ養子には行かないだろう。もし鷹山のように行ったとしても、彼女に愛情を注ぐどころか、すぐに側室を持つだろうと思う。また、ましてや彼女のために頑張っとうとうという考えさえも浮かばないだろう。それなのに鷹山は、わずか17才でありながらも、そのような妻に対して文句一つ言わず愛情を注ぎ続けていたのは本当に凄いことだと私は思う。私生活でも、このように心優しく、差別もせず、文句も言わず、人のため（彼女のため）に働く彼は大人のお屋形よりも賢い人間であったので

はないかと思う。また、そのような彼の一生懸命の姿は、彼の周りの人々にとって良い模範となり、また、彼を尊敬できる基ともなったのではないかと思う。

二つ目は、鷹山が新しく藩主となった藩（米沢藩という）の財政難を回復させ、荒地となった藩を立て直すために人々をやる気にさせたことだ。

鷹山は藩主になってから、しばらく江戸の藩邸にいた。それというのも、鷹山はそこで改革案を作らせていたのだ。その改革案は財政難を乗り越えるための儉約を示したものだ。その儉約は、ただの儉約ではなかった。もとは50人いた女中を9人にまで削減したり、祭りは延期、また、お屋形自ら普段は木綿の服を着用するなど、言わば大儉約であった。また、この儉約は農民の税を増やすことなく、お屋形の周りのものに金をかけないという仕組みになっていた。しかし、このような改革に反対の者たちもいた。藩の重役たちである。彼らは今まで贅沢をしてきたので、この改革に反対し、たくさんの嫌がらせをした。しかし、そんな重役たちにも鷹山は優しくした。月日は過ぎ、鷹山が米沢に入る時がきた。鷹山たちが米沢に入った時、そこは彼らを泊める宿もなく、人々は重税に耐えられず他藩に逃亡し、鷹山らを迎える者も少数しかいなかった。また、人々は重税のため絶望の表情であった。そんな時、鷹山は何の気もなしに冷たい灰の中を煙管でかき回してみたところ、冷たい灰の中にまだ小さな火が残っていた。火に炭を近づけると、火は炭に燃え移り大きな火になった。それを見た鷹山は気付いた。この火のように私の改革は広がる。その時、家来が「お屋形様、その火をいただけませんか。」と言った。そして、その火は多くの家来に配られた。また、家来たちは、その改革が達成できる日まで火を消さないよう約束した。また、鷹山は酒を人々に注いで歩いた。今までの藩主にはない行動に人々は感動し、一生懸命働くようになった。人々を絶望のふちから救った藩主は、その頃19才であった。

私がこの本を読んで一番凄と思ったのは、こ

のような普通ではとうていできない改革を見事にやってのけ、しかも、その改革を行ったのは、まだ20才にもなっていない青年であるということだ。

アメリカのケネディ大統領は、「日本人の中で一番尊敬できる人は上杉鷹山だ。」という発言をした。日本では、そんなに知られていない人だが、素晴らしい模範的な指導者だと私は思った。歴史の中では特に目立った存在ではないが、そのようなあまり知られていない人々について読んでみるのも意外と面白かった。

アポロ13号 奇跡の生還

(ヘンリー・クーパー Jr. 著)

機械工学科2年

森 原 理 絵



この本は、1970年4月13日に打ち上げられたアポロ13号の物語である。

アポロ計画は、人類を月へ送り込むことを目的として始まった。この計画により、ソ連に遅れをとっていたアメリカの宇宙開発は飛躍的に進歩し、たった10年でアポロ11号の人類初の月面着陸を成し遂げるまでになった。

そんな中、アポロ13号は考えられないような大事故に遭うのである。2つあった酸素タンクが2つともダメになり、3つあった燃料電池の2つがダメになり、2つあった電力供給ラインの1つが死んでしまうというものである。しかし、この事実を地上の管制官は、あまりにも事が大き過ぎたために、何が起きているのか分からなかった。アポロ13号から送られてくる、普通ではない、極めて異常であることを示す数値を、現実として捉えることができなかつたのだ。そのため、とんでもない事故が起きたという正しい解釈をするのに時間がかかった。NASAもみんなも安全性には絶対の自信がある、こんな事故はあり得ない、そう思っていたのだった。

しかし、大事故であることが分かってからは、地上の管制官は、アポロ13号をどうにか地球へ帰

還させるため、みんなが一つになって、次々に突きつけられる問題をクリアしていく。大事故に遭った司令船は、もうほとんど死にかけている。このままでは、すぐに酸素や電力が底をついてしまう。だから月面着陸を諦め、死にかけていた司令船の替りに、酸素や電力がある月面着陸船を救命ボートの替りとして地球まで過すという方法がとられた。するとやはり、自らが吐き出す二酸化炭素をどうするかということが問題になる。まだまだ問題はあつた。節電のために船内の温度は3℃まで下がっていた。そのため、3人の体調はかなり悪くなった。また、再突入の際の耐熱シールドは耐えられるのだろうか、パラシュートは無事に開いてくれるのだろうか、節電のために切られていた各種の電源を再び入れるとき、ショートしないだろうか、着水地に発生した台風は大丈夫なのだろうか……などなど、問題は山積みであつた。この絶望的ともいえる状況から、無事地球に帰還するということは、まさしく『奇跡』なのである。

そして、この奇跡を実現することができた裏には、誰一人として諦めずに、みんなを信じ続けた管制官の頑張りがある。この作品は、頑張り続け、一生懸命何事にも取り組めば、きっとできないことはないということを教えてくれているように思う。そして、頑張っている人は本当にかっこいいということをリアルに描いている。

図 書 館 で の マ ナ ー

1. 無駄なおしゃべりをしない、静かにする。
2. 飲食をしない、ガムを噛まない。
3. PHS, 携帯電話をかけない、受信しない。(電話は、そ・と・で!!)
4. 貸出図書の返却期限を守る。
5. 利用した図書は元の棚に戻す。

沈黙の春

(レイチェル・カーソン 著)

電気工学科3年

室川正博



僕はこの本の最初の方を読んだとき、そこに書いてあるきれいだった自然から急に鳥がいなくなり、魚が死んで、人までもが死んでいって、自然が沈黙する。こんなことが起こるわけない、少し大袈裟だなと思いました。でも、この本を読んでいくうちに、全然、大袈裟じゃなかったんだと思うようになりました。

僕は殺虫剤について、ほとんどとっていいほど知識がありません。だから害虫を殺すには仕方がないかなと思っていました。

でもまさか、2・3の害虫や雑草を無くすためにまく殺虫剤がこんなに恐ろしいものだとは思ってもみませんでした。その害虫や雑草をどけるためにまいた殺虫剤により、益虫はもちろん、土の中の生き物、川の中に棲んでいる魚や鳥などにも影響を与え、ひどい時には全滅させてしまうことがあると知ってとても驚きました。しかも、薬と他の薬が混ざってしまうと100倍も危険になるとか、ガンの原因になるものもあるそうです。

この本には、殺虫剤による被害や、DDTやヘプタノールなどの農薬により死んだ人のことや、神経をやられた人のこととか、殺虫剤が腕にかかっただけで死んでしまった人のことなど、本当にたくさんの被害が書いてあった。あんなにたくさんの被害が出ているのに、こんな危険な殺虫剤を使う必要なんてあったんだろうか。しかも、殺虫剤によって益虫が殺され、害虫がさらに増えた場合や、その殺虫剤に抵抗力のある病原菌が出てきて、それを殺すため、さらに強力な殺虫剤を撒いたけど、さらに抵抗力のある病原体が出てくるようになって、さらに他の生物などに被害が出るだけで、全然意味がない。殺虫剤を使わなかった方が被害が少なかったということもあり、こんな無意味なことを止めさせられなかったんだろう。農務省や

公衆衛生局はもっと早く、そんな殺虫剤の使用を禁止していれば、かなり被害は減らせることができたはずなのに……。

他の本でも少し調べただけけど、この本は一日で4万部も売れたそうです。それでアメリカでは大騒ぎになったそうです。誰だって身近に使われている農薬などが、とても恐ろしいものだと知ったら驚くと思いました。

この本が出版されてから、レイチェルは農薬や化学薬品の製造企業などから、雑誌やテレビ、ラジオなど、いろんな方法で攻撃を受けたそうです。そんな攻撃にも負けず頑張ったレイチェルは、本当に凄い人だなと思いました。この本によって内務省や農務省がちゃんと調査を始めたそうです。もしこの本が無ければ、本当に今ごろは「沈黙の春」のようになっていたかもしれません。そう考えるとぞっとします。

今でも農薬や殺虫剤などがたくさん使われているけど、全く人や動物に無害というわけじゃないと思う。ひょっとすると今でも少しずつ僕らの体にも毒が蓄積されていってるかもしれない。けれども、昔よりはずっと良くなってきていると思う。これからもっと農薬、殺虫剤を使わなくてもよくなるようになってほしいと思います。

妹島和世読本-1988

(妹島和世 著)

建築学科4年

山本仁美



私の中の妹島和世という人は、妹島和世であって、あくまでも名詞であった。しかし、この本を読み終え、そしていろいろな体験をして妹島和世が『妹島和世』になった。名詞から……固有名詞になったのだ。

この本を読んでわかったことは、プロだからといって、全てにおいてサラリとやってのけてしまえるわけではないということだった。妹島和世も「プランができない！」と泣くのだ。普段授業で

生徒に言っているのと同じことを、妹島和世や他の建築家たちも考えて悩んでいるのだ。

プランといったら、私たちの中ではエスキスを思い浮かべるが、本当の建築、つまり実際に家が建つときのプランというのは、エスキスだけでなく、他にも予算のことや、家相、光、風、視線、施主の考えをいかにそれらしくして本人に分かってもらえるか等など、根本的なことから言葉までは言い表せないそれ以上のことも考え、それを総合したものことであり、以前述べたようにサラリと終わるものではないのだ。

そしてそのプランも、ただ何となくという曖昧な理由ではなくて、明確な理由のもとで、じっくりじっくり考えられる。妹島和世事務所の場合、じっくり考えられたプランをまだギリギリまで煮詰め、そしてスタッフが残り何時間かで模型を作る。しかし、プランも模型も最後の最後まで一つではない。最後の最後の最後でやっと一つに決まる。戦争だ。

共同設計者の西沢立衛さんの第一印象と同じく、固有名詞になった妹島和世の第一印象は、「あわただしい人」であり、西沢さんの言われた「ぜんまいが壊れて暴走するチョコQ」という言葉が最も適切であると思った。

修羅場のような毎日を繰り返す妹島和世事務所は人が多い。そして若い。積極的で、プランを考えるときは意見の食い違いがあっても、最後に完成したときは皆で喜んで皆で達成感を味わっているように思えた。このことは、妹島和世が本の中で望ましいと言っていたことと通じることで、この本を読んだ限りでは、スタッフに恵まれていると思った。

小さな方向を持つ矢印たちが、大きな矢印と一つになって、とてつもなく大きな方向性のある矢印になる。そして今、その結果は表われている。矢印はぐんぐん進む。

この本を読んで、妹島和世をもっともっと知りたくなった。

そして私は、本の中でも印象の強かったマルチメディア工房に行った。

人間喜劇 光あれ

(ウィリアム・サロイアン 著)

電気工学科 5年

坂 本 涉



ベテランの電信手が昔のことを思い出している様子分かる。僕たちはまだあまり年をとっていないので、この気持ちはよく分からないのだが、ある物がきっかけで昔のことを思い出すのは楽しいかもしれない。仕事をしながら、時々雑談をしながら、時には1・2時間話もしないで働くとかという中で、その繰り返しの中での昔の回想は少しを年として仕事にも心にもゆとりができたのかと思う。

仕事について、女について、身近なことについても話している。仕事の終わる頃にはこんな光景があるのかと思う。医者には物質は分かっても精神は分からない。肉体的に疲れているのか精神的に疲れているのかのことだと思う。その後、飲みに行き、歩いていると青年と出会った。

その青年は何も信じず、人間は腐敗した生き物だと思っていた。年寄りの人は若い頃はいいと言うが、僕自身はあまりよいとは思ったことはない。その青年もよいとは思っていないどころか、悪いと思っていたようだ。しかし、目の前にいたスパングラが、この青年に対して親切にした。今まで青年はどこへ行っても相手もされず、銃を向ければ怖がられる。人間は腐敗した生き物だ。しかしこれは、この青年、自分自身の考え方に問題があると思った。誰も今をいいと思わないが、時間が経つとその時のことがよいと思えてくるのだろうか。スパングラは恐れることなく銃を向けた青年に親切にして、その青年を少し立ち直らせた。その青年は父を幼い頃に亡くしていた。このことから言うと、親が生きているのは有難いことなのかなと思う。

その後また、スパングラと老電信手との話になった。古い歌や教会の歌や民謡は、昔を思い出すいいものだから、忘れてはいけないのかなと思

う。毎日毎日同じことをやっていた若い頃のことは今でも遠い昔ではなく、それをやってきたから今があるのかと思う。

ここまで一通り読んだ感想文を書いたが、自分自身、年をあまりとっていないので、老電信手やその仲間たちのことは今一よく分からなかった。他の人が同じ文章を読んでも、僕の印象や感想は少し外れているかもしれない。しかし、青年の気持ちはとてもよく分かった。僕自身、別に結核でもなく、人間が嫌いでもなく、犯罪を犯したいとは思わないが、今を生きていると、ふと空しくなることがある時もある。その時は人生を長いこと経験してきた人の話を聞くのもよいことなのかなと思う。

最後に、この短編小説は僕にとってはとても難しいものだった。普段あまり読まない上、この主人公が自分と年が離れ過ぎているからとか、いろんな理由があると思う。もう少し年をとり、また何年か後に同じものを読んでみると、また違った印象を持ち、感想や考えも違ってくるかもしれない。

動物農場

(ジョージ・オーウェル 著)

土木工学科 5年

木村 紋子



この農場の動物たちは、自分では何も生産しない人間を追い出し、動物たちが経営する平等な農場を目指した。しかし次第に、頭の賢い豚が他の動物を支配していくようになっていく。支配者は、被支配者と自分を守ってくれる強い味方と、被支配者を洗脳するためのもの、自分に刃が向かないようにするための憎むべき敵を作っていた。支配者に歯向うものは殺していった。

偉い豚の中でも、ナポレオンという豚が一番のボスだった。ナポレオンは今まで人間に支配されて嫌だったのに、自分が上に立つと結局人間と同じか、それ以上に虐殺したり働かせたりしていた

のがとても悲しかった。都合のいいように法律も変えた。この話は動物だということにしているけど、人間の特徴が表されていると思う。ヒトラーとかスターリンとかの独裁者は、この中のナポレオンだったと思う。人間は弱いときの気持ちが十分わかってとても辛いと思っていたとしても、その立場から逃れることができれば、逆に権力が欲しくなっていく。昔の大名たちも農民を苦しませていた日本でも、ソ連でも、ドイツでも。私は上に立つよりは中間位でのんびりしていきたい。

この話の中に、ボックサーという力持ちの馬がいた。私はその馬の生き方が気になった。どんなに苦しくても「私はもっと働こう。」とって人一倍働いた。そしてナポレオンがどんなにひどくても「同志は正しい。」と最後まで信じた。最後、ボックサーが働けなくなったとき、ナポレオンはボックサーを廃馬屠業者へ連れて行かした。ボックサーはあんなに仲間を信じて、いつももっと働こうというように、前向きな姿勢で他の動物たちをも励ました。ナポレオンのこともあんなに信じていたのに。

私は自分の考えを必ず言う方だと思う。でもボックサーのように考えを言わず、ずっと信じ続けるということも大切だと思う。

貸出図書ベスト10

調査対象期間：平成11年4月1日～7月15日

書名	著者
詳解電気回路演習 下	大下 眞二郎
テレビジョン工学 上巻	フィンク・ドナルド・G 田辺 義敏 訳
二級建築士受験基本語1000 第2版	建築技術用語調査会
面接の達人 バイブル版	中谷 彰 宏
上・中級公務員試験数的推理	資格試験研究会
エレクトロニクス基礎回路講座 第1巻ブリッジ回路	酒井 洋
最新高級電験講座6 電気測定	大藤 高文
詳解電気回路演習 上	大下 眞二郎
現代の建築家 安藤忠雄	S D 編集部
SPI能力検査30秒即解法	小林 公夫

ドイツを変えた10人の環境パイオニア

(今泉みね子 著)

専攻科機械電気工学専攻2年
吉野貴文



私は「環境」ということには以前から興味を持っていたが、特に気になるニュースを少し前に見た。

それは、「工場の用水路にメダカがいた」というものだった。私ぐらいでも子供のころは普通にメダカやザリガニを捕ったりして遊んでいたのに、なぜそんな事がニュースになるのか不思議だった。それから環境について、いろいろな本とかも読むようになったが、最近読んだものがこの本である。

作者は、環境政策では最も進んでいる国の一つといわれるドイツの様々なパイオニアについて紹介している。市の職員、建築家、小学校の校長、企業の社長、化学者、NGOリーダーなど。

この中で特に二つのことが印象に残った。一つは、市の職員などの自治体関係者自身が、パイオニアとして数多く紹介されていた点である。日本では、どちらかと言うと、官の方は環境問題について後手に回る点が目につくので、少し驚いた。もう一つは、ある企業の言う、「エコロジーとエコノミーは決して相反しない」ということである。直接的に環境改善に関与しない企業でも、環境への配慮が直接的、間接的に利益に繋がるというものである。とかく、環境問題、環境対策というと金のかかるというイメージがあると思うが、大きい目で見ればそうではない。つい、経済性を理由に環境問題を疎かにしがちな昨今、もう一度考えるきっかけになると思う。

また、子供への教育の大切さ、今までのライフスタイルの再検討など、今の日本での問題点のヒントになる点も紹介されている。

結局、地球に住んでいる以上、人は自然との関わり合いを断つことはできない。この当たり前のことをもう一度認識することが出発点になるのだろうか？と、読んだ後、感じた。

留学生が紹介する外国の図書館

八角亭 Chinese Library

土木工学科5年
デシリ



経験が一番いい先生だと言われているが、人生は短くて多くのことを自分で経験できない。しかし、いろいろな本や教科書・新聞等を読むことによって、幅の広いことを学ぶことができるようになる。専門家や哲学者等、社会の異なるレベルから来た賢い人々の一生の仕事や考え方や作品等は、大抵どこかに書かれているので、図書館は大人物の集りだとも考えられるだろう。

この間、澳門を訪れる機会があり、八角亭 (Chinese Library) を訪問することができた。面白いことに、この図書館は敷地面積が30㎡前後しかなく、交通の激しい交差点に位置している。

2階建だが、面積が小さいので資料はあまり多くなかった。それでも、いろいろな分野の本は何冊かずつ2階に並べてあることに気付いた。1階には新聞と雑誌しかなく、ど真ん中にはバー式の丸いテーブルがあって、皆はその周りに座って新聞を真剣に読んでいた。ここにいる人々は30代以上ばかりで、新聞ばかりのように周りを見ずに、記事を読むことに熱中していた。八角亭に入ると、中国人の領域に侵入した感じを受けた。この図書館には誰でも入れるが、入る時にはカードを渡されて、出る時にはそれを返さなければならない。

今まで入った図書館は、ある標準の図書館のイメージ、又はそれに近い類に属していたので、八角亭を訪問することができて良かったと思う。このような図書館がまだ存在していることが初めて分かって、いい見学になった。



新任教職員の随想

読書のすすめ

環境都市工学科

重松 尚久



最近はマスメディアの発達から、文字を読まなくてもほとんどの情報が入手できるために、読書離れが進んでいるようです。

私も例外に漏れず、その中の一人でしたが、一冊の本との出会いから読書するようになりました。その本は、村上春樹著「雨天火炎」です。これは私的にいえぎ究極のグルメエッセイです。旅行好きな私にとって、このような紀行文を読むことによって、他人の体験を疑似体験できる楽しみがあります。少し内容を紹介しておきます。この本は村上春樹がギリシャ聖教の聖地アトスを訪れ、半島に点在する修道院を歩いて回った際の紀行文です。ここでの宿泊施設は修道院しかなく、出される食事はスープ、野菜、パンといった粗食ばかり……。中には、一面青カビが生え、石のように堅いパンを水道水でふやかしたものとかが、元気になるからと酢を注いで無茶苦茶な味になった冷めたスープ、壁土みたいにボロボロのフェッターチーズなどもあったそうです。本当に過酷な旅、過酷な食事情。しかし、最後に村上氏はこう語っています。『何日か経つとアトスが不思議に恋しくなった。人々は貧しいなりに静かでも濃密な確信を持っていき、食べ物はシンプルだけど、生き生きとした実感のある味をたたえていた。』私はこの本を通して、とても貴重な経験をしたように感じました。

「感動できる一冊の本に出会う」ことはなかなか難しいことです。私は本を読むことによって、想像力（自分で考える力）を養ってほしいと思っています。自分が少しでも興味を持ったことに対する答えを本に求めてみるのも一つの方法だと思います。みなさんも読書を通していろんなことを学びましょう。

読書のすすめ

機械工学科

八木 良尚



私は比較的広い範囲の本を、いわゆる乱読してきました。その時々で自ら興味を持ったテーマに関する本を本屋で探し購入して、家に帰って本を初めて開いたときに、活字のインクの真新しい匂いを感じる 때가たまらく好きでした。本によっては読み始めは話の背景が判らず忍耐を要しますが、背景が判り始めると時間を忘れて読み続け、気が付くと夜が白々と明けてくるような体験をしばしばしました。

私が年齢に応じて出会った本のジャンルを紹介して、「読書の進め」に替えたいと思います。中学校で、ある本に出会って、私の乱読が始まりました。それはガモフ全集でした。物理学全般を分かりやすく解説した本でした。このガモフ全集を読むことによって原子の世界から宇宙の成り立ち、ニュートン力学から相対性理論の世界を垣間見たような感覚を覚えました。その後、高校を卒業するまでは物理関係の一般解説書を何冊か読みました。大学に入ってから哲学書（宗教哲学）とか思想書を読みあさりました。

最近では天体物理学とか環境問題等に関心があり、天体物理学関係ではホーキングの「ホーキング、宇宙を語る」が印象的でした。その中で、「宇宙の始まり、すなわちビッグバンの前後においても、我々が理解している物理学上の法則が成り立っている」との考えに何となく同意している自分を見出しました。最後に、環境問題に関しては、石弘之の「地球環境報告」に強く惹かれました。これまで、たくさんの新しい化学合成物質が作られ、メリットだけが強調され、その危険性についてはほとんど公表どころか試験すらも行っておらず、人体に影響が出、社会問題となるまで数十年間放置されてきたことに強い衝撃を受けました。

以上のような乱読でも知識が身に付き、それがいろいろな場所で話の種になっています。

読書のすすめ

電気工学科

大西 義浩



「読書のすすめ」ということで、今までに私が読んだ本の中から面白いと思ったものを紹介したいと思います。

まず、浮谷東次郎著「がむしゃら1500キロ」。この著者は、伝説のレーサーと呼ばれる人で、40年ほど前に23歳の若さで亡くなりました。その著者が、15歳の時に（今では考えられませんが、当時は免許を取れたようです）東京～大阪を50ccのバイクで往復した話です。私は小学生のころ、この本を読んでバイクが大好きな子供になり、大学生になってバイクで日本縦断をしてしまうほどの影響を受けました。

次に、井上靖著「北の海」。これは結構有名な小説で、井上靖の自伝的小説と呼ばれるものの一つです。主人公の「洪作」が小学生の時の話が「しろばんば」、中学生の時が「夏草冬涛^{なつくさふゆなみ}」、そして「北の海」は中学卒業後の浪人時代の話です。当時の中学校は5年制で、この「北の海」の洪作は18歳くらいだと思います。「勉強をしなければならぬのは分かっているが、どうもやる気になれない」という人は、この小説を読んでみてください。これも今と時代は違いますが、主人公の洪作が同じ悩みを抱えています。しかし浪人したからといって、がむしゃらに勉強するという話ではなく、洪作は浪人中に関わらず、住んでいる沼津から柔道をするためだけで、（洪作は柔道部です）金沢に行ってしまう。そこで、いろいろな人と出会って、いろいろなことを考えるという話です。もし、この本を読んで面白かった人は、「しろばんば」、「夏草冬涛」も読んでみてください。

以上、2編の作品を紹介しましたが、2編とも皆さんと同じくらいの年齢の主人公と一緒に楽しめる作品だと思います。

読書のすすめ

環境都市工学科

石井 仁



今回、「読書のすすめ」という随想の執筆を依頼されたので、自分の経験から何かおすすめることを書こうと思います。そこでまず、読書という言葉の意味について広辞苑で調べたところ、「書物を読むこと」と記載されていました。書物を読むことって、その行為のことだったら、自分の読書スタイルについて書いてもいいだろうなどと勝手に考え、そのことをおすすめします。ちょっと邪魔な気もしますが。

私は、机に向かって読書をするのが苦手です。だいたい、すぐに飽きるか寝てしまいます。それが自分の専門分野の本だったりするとなおさらです。これは本を読んでやろうなんて意気込んで臨むからダメなわけで、つまり読書を目的として読書をするのが苦手なのだろうと言いつつ考えています。ですが仕事柄、読書をしないとダメ教官と後ろ指を指されそうなので、読書を目的としない読書をよくしています。なんだか訳の分からないことを書いていますが、要するに電車の中やトイレの中、あるいは寝る前など暇つぶしに読書をしています。この手の読書は、あくまでも目的が移動すること、排泄すること、眠りに就くことであり、読書をするのが目的ではありません。目的が読書でないためか、あまり飽きることもなく読書ができます。こんな読書の仕方ですが、ハマると読書があたかも目的のようになることがあります。電車を乗り過ごしたことはありませんが、駅のホームで読書をしてしまったり、トイレの中にもってしまったり、寝ずに朝まで起きていたりとかです。

こんな感じで暇つぶしに読書をするのはどうでしょうか。一日のうちで暇な時間を探してみれば意外とあると思います。そんな時に、あくまでも本を読もうなんて意気込まずに。

在外研究員だより

外国図書館紹介

機械工学科助教授

中 迫 正 一

(英国リーズ大学客員研究員)

平成11年3月より10ヶ月間、文部省長期在外研究員として、英国リーズ大学機械工学科で研究を行える機会を与えて頂いた。研究テーマは「動力伝達装置のトライボCADに関する研究」で、最新のコンピュータ技術を動力伝達用機械要素のトライボ設計に適用するための研究を進めている。

本稿では、研究内容はさておき、リーズの街と図書館について紹介することとした。

リーズはロンドンから列車で2時間半ほど離れたイングランド北部(グレートブリテン島のほぼ中央)に位置している。19世紀に毛織物産業を中心として発展を遂げた街で、人口は約42万人、英国では4・5番目に大きい都市である。

市内はショッピング、ビジネス及び教育のエリアにきちんと分割されており、リーズ駅から少し歩けば、ガラス張りのアーケードに囲まれたショッピングセンター(写真1)が広がり、一日中買い物客で賑わっている。また、車で1時間も走れば、中世の城壁に囲まれた古都ヨークや見渡す限りの平原が広がるヨークシャー・デイル国立公園に行くこともできる。



▲写真1 リーズ市内 (Victoria Quarter)



▲写真2 リーズ大学 (Parkinson Building)

次に図書館については、リーズ大学(写真2)には大きく分けて以下の5つの図書館がある。

- Brotherton Library (美術・社会・教育関係)
- Science and Engineering Library
- Law Library
- Medical and Dental Library
- Clothworkers' Library

私は時々、Science and Engineering Libraryを利用しているが、図書館のシステム自体は日本と同様である。ただし、写真入りのIDカードが必要であり、入退館及び貸出の記録は全てコンピュータにより処理されている。開館時間は朝9時～夜10時で、試験期間中には夜遅くまで勉強している学生が見受けられた。また、各学科毎にDepartment Libraryもあり、専門書を閲覧することができる。

その他、リーズにはLeeds Central Libraryがあり、ここでは書籍だけでなく、音楽CDやビデオ等も借りることができる。さらに、大学の図書館にはない幼児向け図書や玩具を備えたコーナーもあり、子供連れの母親が気軽に利用できるシステムになっている。

以上、簡単にリーズの街と図書館について紹介させて頂いた。私自身もリーズに来てまだ約2ヶ月しか経っておらず、詳しい報告は帰国後に譲ることとした。

平成11年5月、英国リーズ大学にて……



新 着 図 書 10 選

イスラム世界の常識と非常識

加藤 博 著 (淡交社)

一般科目 宇根俊範

世界の三大宗教のうちの一つイスラム教。今日の日本において、イスラム世界についての報道は日々なされているが、それでもイスラム世界は依然として私達日本人にとって、最も遠い世界の一つである。本校もイスラム世界からの留学生を数名お迎えしているが、皆さんはどれだけイスラム世界について知っているだろうか？本書はこのイスラム世界について、政治・経済・社会・日常生活などを分かりやすく解説したものである。

マーガレット・バーク＝ホワイト写真集

マーガレット・バーク＝ホワイト 著 (岩波書店)

一般科目 宇根俊範

今世紀の写真家たちの中でも、最も勇敢にして、かつひととき優れた写真家マーガレット・バーク＝ホワイトは、『ライフ』誌創刊に際して、写真部門の中心人物として活躍し（彼女の作品が創刊号の表紙を飾った）、その映像とカメラワークによって名声を博した。映画『ガンジー』にも登場するが、皆さんには彼女の作品の中では『糸を紡ぐガンジー』がおなじみであろう。この写真集は、彼女の写真の全ジャンルから選り優られた138枚を載せる。

伝熱工学の基礎

望月貞成 ほか著 (日新出版)

機械工学科 八木良尚

目に見えず、触れることもできず、直接測定することもできない熱の移動現象は、初学者にとって大変分かりにくいと考えられているようです。本書は、著者の長年の経験を踏まえて、基本事項を厳選し、親切丁寧で分かりやすい説明が試みられています。さらに、理解を深めるために、各章末に関連する演習問題を豊富に用意し、読者がこれらの演習問題を解く場合の思考過程を振り返る際の手助けになるべく詳細な解法が付けられています。

マンガで学ぶ木の家・土の家

小林一元 著 (井上書院)

建築学科 篠部 裕

わが国では、年間に約120万戸から150万戸の住宅が建設されているが、そのうち約3割の住宅は「在来構法の木造一戸建て住宅」である。一戸建て住宅に限ってみれば、約3分の2が在来構法の木造住宅であると言える。本書は、このような在来構法の木造一戸建て住宅が、どのようなプロセスで建設されていくかを、マンガで分かりやすくまとめたものである。専門語句や大工の使う現場用語の解説もあり、実務的な知識も修得できる。

機械系熱力学の基礎(上),(下)

伊藤猛宏 著 (コロナ社)

機械工学科 河口勇治

機械工学科4・5学年で、熱工学という授業科目の中で熱力学を学習します。熱力学の展開で定義される内部エネルギー、エンタルピ、エントロピなどが抽象的であり、熱力学を理解しにくくしています。また、熱力学の授業内容の中で、熱力学の第二法則、湿り空気、燃焼は、特に理解が難しいものである。本書を参考書として活用し、熱力学への理解を深めてもらいたいと思います。

脳と心のバイオフィジックス

松本修文 編 (共立出版)

電気工学科 植田義文

21世紀を間近に控え、この本は次世紀の学問の分野の一つとなる生命学分野で若者が旗手となって活躍してもらうことを期待し編纂された、ニューバイオフィジックスシリーズの第9巻目である。自然科学の立場から、脳と心の問題を追求していくために広い視野から題材が盛り込まれている。第1章では、脳と心の哲学論争と現代脳科学、第2章では、心の進化、第3章では、心を物理的・数学的方法で説明できるかどうか（心の量子論は興味ある箇所である。）、最後の章では、情報工学が生み出す人工物がどこまでヒトの脳と心に近づき得るかが考察されている。一読を薦める。

ゼロ摩擦への挑戦 —マイクロトライボロジーの世界—

金子礼三 著 (オーム社)

機械工学科 河野 正 来

マイクロトライボロジーは、マイクロマシン、超精密加工などにおける摩擦、摩耗、潤滑の問題を扱う科学技術で、マイクロマシンとしては、例えば直径0.1ミリ程度のマイクロモータなどがある。また、磁気ディスク装置などにおいてもマイクロトライボロジーが必要となる。マイクロトライボロジーの究極の目的は摩耗をゼロにすることにあり、本書はこのようなマイクロトライボロジーに関する先端技術が分かりやすく記述されている。

絵とき自然と住まいの環境

堀越哲美 ほか著 (彰国社)

環境都市工学科 石井 仁

この本は、今問題となっている地球環境問題を解決する方法が書かれています。ですが、具体的にこうしなさいと説明してる訳ではありません。私たち一人ひとりが身近な環境に目を向け、じっくり考え、そして行動を起すときに、ほんの少し手助けをしてくれます。内容はイラストと分かりやすい文章で構成されているので、専門知識は必要ありません。また各章毎に内容がまとめてあるので興味のあるところから読むことができます。

人物20世紀

樺山紘一 ほか編 (講談社)

一般科目 宇根 俊 範

いよいよ20世紀も幕を閉じようとしている。出版界でも、『20世紀』を冠した書が多数出版されているが、この書もその一つ。1901年から1997年までの各年代で歴史上活躍した人物を取り上げ、その紹介をしたものである。具体的には、1901年には、コナン・ドイルが、1997年には、マルティナ・ヒンギスが載せられているように、政治家・軍人・学者・芸術家・スポーツ選手・映画俳優と、ありとあらゆる有名人が取り上げられている。来るべき21世紀に向けて、この100年に登場した人間たちの業績を改めて思い起してみるのも意味のあることと言えよう。

DV-X α 法による電子状態計算

岩沢美佐子 ほか著 (三共出版)

電気工学科 植田 義 文

新材料の開発により、我々の生活環境が豊かになってきている。新素材を開発していくためには、電子状態と化学結合の理解からアプローチすることが有効である。これからの物質探索や実験計画において、積極的に量子論を用いることが必須となってくる。そのような局面では、実際に自分で電子状態計算をする必要に迫られることが予想される。本書では、姉妹書である「金属材料学の量子化学と量子合金設計」、「量子材料学の初歩」、「初めての電子状態計算」(共に三共出版)で用いられているDV-X α 法のプログラムと解説がなされている。高性能化したパソコン上で各自が実際にDV-X α 法によるプログラムを走らせながら電子状態の計算を学ぶことができるよう配慮されており、是非試すことを進める。



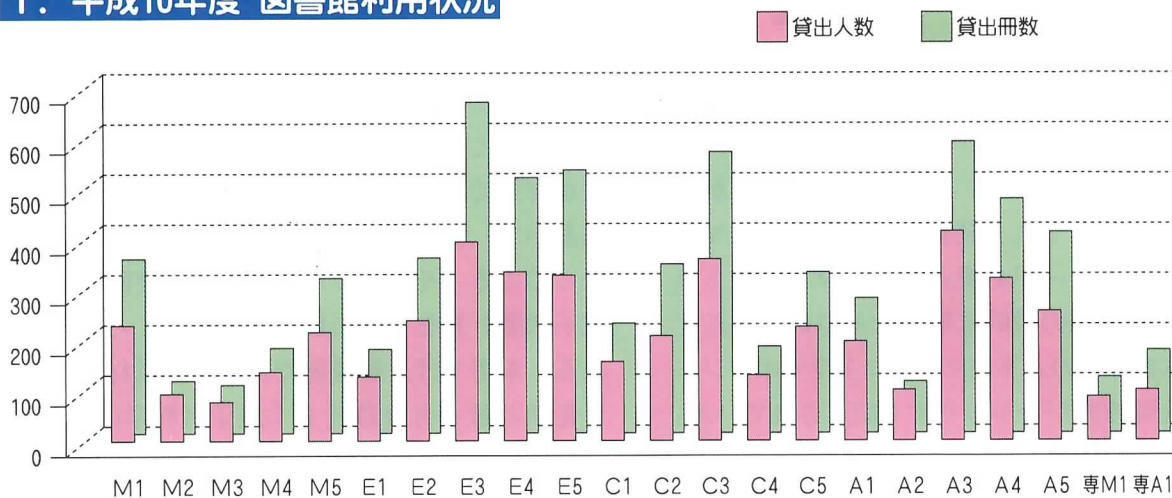
貸出図書ベスト10

対象期間：平成10年度

書 名	著 者
オスカー・ニーマイヤー 1937-1997	オスカー・ニーマイヤー 作 ギャラリー・間企画 編
現代の建築家 黒川紀章	S D 編 集 部
Java Script入門 ホームページを飾る	河 西 朝 雄
現代の建築家 磯崎 新	S D 編 集 部
妹島和世読本	二 川 幸 夫
シーラカンスJAM	ギャラリー・間企画
GA ARCHITECT8 TADA0 ANDO《安藤忠雄》	二 川 幸 夫
長谷川逸子(現代の建築家シリーズ)	S D 編 集 部
機械工学基礎講座第10巻 工作機械	益 子 正 巳 伊 藤
ホームページの制作	河 西 朝 雄

お 知 ら せ

1. 平成10年度 図書館利用状況



(期間：平成10年4月～11年3月)

学年学科	M1	M2	M3	M4	M5	E1	E2	E3	E4	E5	C1	C2	C3	C4	C5	A1	A2	A3	A4	A5	専M1	専A1	合 計
貸出人数	200	64	48	107	186	97	209	365	306	298	126	177	331	100	196	167	71	386	292	227	57	70	4080(人)
貸出冊数	333	90	81	155	294	152	334	643	493	508	202	321	543	157	305	253	87	564	449	384	95	149	6592(冊)

2. 図書館が少しずつ変わっています、ご存知ですか？

- (1) コイン式複写機の設置について
今年4月、売店に置いていた複写機を閲覧室に移設しました。従来は平日17時までしか利用できませんでしたが、今後は図書館閉館時まで土曜日も休業日も利用できるようになりました。
- (2) 図書返却延滞時の貸出制限について
今年2月から図書返却延滞時の貸出制限を実施しています。図書の返却が遅れると遅れた日数に相当する期間(30日を上限)、次回の貸出が制限されますので、返却期限を守りましょう。(試験時に借りれなかったら大変です。)

3. 広島大学附属図書館の利用について

—18才以下の学外者の利用案内—

- (1) 広大図書館は、学術研究を目的とする18才以上の一般の人にも資料の利用サービスを行っています。
このたび、呉高専の18才以下の学生の皆さんへも特別に次の条件で利用許可する旨、連絡がありましたのでお知らせします。
 - ① 呉高専図書館及び近隣の公共図書館で所蔵しない資料の利用であること。
 - ② 呉高専図書館で発行する紹介状を持参すること。
- (2) 上記の条件で利用が始まりましたので、希望者は呉高専図書館で紹介状の発行を願い出てください。

編 集 後 記

図書だより第39号をお届けします。寄稿していただいた皆さんには深く感謝申し上げます。1年生の田中さんの読んだ上杉鷹山は、感想文中にもあるとおり、「貴方の尊敬する日本人は誰ですか？」という日本人記者の問いに、ケネディー大統領が彼をあげたのですが、その時記者たちは誰一人彼のことを知らなかったそうです。似たような話があります。終戦直後、満州事変の首謀者であった陸軍の石原莞爾にアメリカ人記者たちが、「今度の戦争で一番責任がある人物は誰ですか」との質問をし、その時石原は「ペリー」と答えたそうです。ところがアメリカ人記者たちはペリーのことを知りませんでした。(なぜ、彼がペリーと答えたのかは歴史の授業中に説明します。)

国の内外で人物の評価は違うようです。

(図書館長補 宇根 俊範)